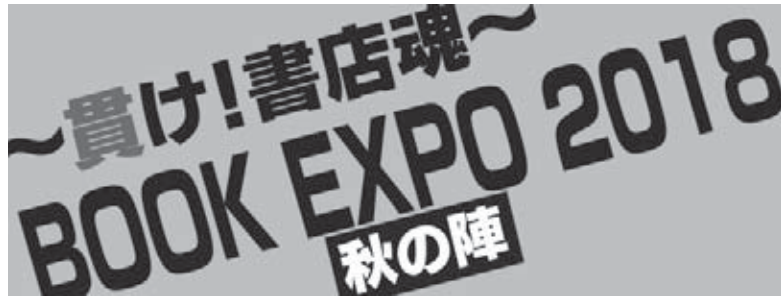


全国に広がる参加書店、出版社

11月7日はグランフロント大阪へ

「今日は得した」企画をご用意

「BOOK EXPO 2018」実行委員会
実行委員長 洞本 昌哉



この秋もBOOK EXPO 2018実行委員長をさせて頂く事になりました。京都府たば書房 洞本です。同会も今年で8回目を迎え、おかげ様で昨年実績は売上、書店人参加数共に「書店業界 日本一」の大商談会となりました。ご尽力くださった関係者各位、また当日ご参加くださった皆様には伏して御礼申し上げます。

さて今年のサブテーマは「買い！書店魂」と致しまして。我々関西の書店人は、数字だけでは無く、本を売る気持ちも日本一だという意味合いを込めて決定しました。

ご存知の通り出版不況の影響から、各出版社の大阪支店・営業所は東京に撤退し、中央からの出張回数も減り、我々書店人と出版社さまとの情報交換の機会は減少の一途です。営業担当者様が替われば今までの信頼関係は薄くなり、必要な情報が届かなくなる可能性が高まっています。

ちょっと考えてみて下さい。もしあなたが出版社の経営陣だったら、どこに時間とお金を投資しますか？自社の本を売ってくれる人が沢山集まっている所に出席しますよね。一番難しい、新規ルート開拓が出来る可能性に満ちた会場を逃さないですよ。限られた出張回数の中で取捨選択したら、確実にこの商談会を選ばれる方に入ると思っています。それだけ出る側だっ

てお会いになるんです。電車にちょっと乗ったら、商売の種を持った営業さんが一同に会している、久しぶりに顔を合わせ情報交換出来る書店仲間がそこにいる。そんな場所が梅田にある。参加しないのは、もったいないですよ。

「11月7日(水)はそんな熱い1日です！」諸先輩が築き上げられた過去7回のこの実績から、参加書店は全国へと広がり、既に北陸・東海・中国地方からも開催日のお問合せを頂いております。

また出展募集が始まった6月初日から、既に多くの出版社さま等からお申し込みを頂いております。今年も児童書ブースでの作家さんのトークショー(今年も関西ゆかりのスズキ・コジさん)、OBOP・京都本大賞などの受賞作家さんをお迎えし、「今日は得した」と思って頂ける企画をご用意しております。

またブースは、昨年同様約240超をご用意いたしますので、絶対1日では、廻り切れない商談会になります。昨年は、自店の売れ筋や販売実績、得意ジャンル、連絡先などを書き込んだ自店PR文を出展社に配布されている方もお見受けしました。参加書店側も工夫次第で、もっともっと実りのある商談会に出来るはずですよ。

▶主催など

主催：「BOOK EXPO 2018」実行委員会
実行委員長：洞本昌哉・ふたば書房代表取締役
後援：経済産業省、一般社団法人日本書籍出版協会(予定)一般社団法人日本雑誌協会、一般社団法人日本出版取次協会、日本書店商業組合連合会、日本児童図書出版協会、関西・大阪21世紀協会、関西元気文化圏、サンテレビジョン、毎日放送、読売新聞大阪本社

事務局協力：一般財団法人出版文化産業振興財団(JPIC)

▶開催日時

平成30年11月7日(水) 11時~18時
10時30分~受付開始/10時40分~開会セレモニー
(前回 平成29年11月7日(火) 10時30分~18時)

▶会場

大阪市・グランフロント大阪(前回 同会場)
地下2階「コングレコンベンションセンター」
JR大阪駅・地下鉄/阪急梅田駅 徒歩3分
阪神梅田駅 徒歩6分

▶出展料

1ブース出展につき32,400円(税込)
ジャンルの異なる2ブース目から27,000円(税込)
(前回 同額)

▶ブース種別

一般/児童書/コミック/第三商材

▶目標

出展230ブース、来場書店人数1,100名
(前回 出展243ブース、来場書店人数1,056名
商談成立5,279件、101,488,237円(前年比:103.5%))

「買い！書店魂」と致しまして。我々関西の書店人は、数字だけでは無く、本を売る気持ちも日本一だという意味合いを込めて決定しました。

ご存知の通り出版不況の影響から、各出版社の大阪支店・営業所は東京に撤退し、中央からの出張回数も減り、我々書店人と出版社さまとの情報交換の機会は減少の一途です。営業担当者様が替われば今までの信頼関係は薄くなり、必要な情報が届かなくなる可能性が高まっています。

ちょっと考えてみて下さい。もしあなたが出版社の経営陣だったら、どこに時間とお金を投資しますか？自社の本を売ってくれる人が沢山集まっている所に出席しますよね。一番難しい、新規ルート開拓が出来る可能性に満ちた会場を逃さないですよ。限られた出張回数の中で取捨選択したら、確実にこの商談会を選ばれる方に入ると思っています。それだけ出る側だっ

てお会いになるんです。電車にちょっと乗ったら、商売の種を持った営業さんが一同に会している、久しぶりに顔を合わせ情報交換出来る書店仲間がそこにいる。そんな場所が梅田にある。参加しないのは、もったいないですよ。

「11月7日(水)はそんな熱い1日です！」諸先輩が築き上げられた過去7回のこの実績から、参加書店は全国へと広がり、既に北陸・東海・中国地方からも開催日のお問合せを頂いております。

また出展募集が始まった6月初日から、既に多くの出版社さま等からお申し込みを頂いております。今年も児童書ブースでの作家さんのトークショー(今年も関西ゆかりのスズキ・コジさん)、OBOP・京都本大賞などの受賞作家さんをお迎えし、「今日は得した」と思って頂ける企画をご用意しております。

新版広辞苑に よせて

堺市 一心堂書店 鎌苅 一身

十年ぶりにあの広辞苑第七版が刊行された。時を置かずにかシオの電子辞書に全て収録された、大きくテレビCMが流れていた。

ところで、日頃我々の言葉遣いで気になることについて、書いてみる気になった。

まず、「奴・ヤツ」という言葉の多用だ。広辞苑によれば、①人を卑しめていい、または目下の者を親しんでいう語。②物事を乱暴にいう語。「こっちの〜をくれ」卑しめていうとき、また無遠慮にいうときに用いるとある。使いやすい便利なのだが、あまり聞

こえの良い言葉ではないだろうか?。「ヤツ」は素敵な女性も、またアナウンサーでさえも時々使っているのに驚く。これに代る言葉として、「モノ」「分」という良い言葉があるにも関わらず、相当頻繁に使われており、言語生活の無頓着さを示すものではないか。

さらには「少し」「ちょっと」「一応」「まあ」「ないことばない(ふっふっふ)」の多用だ。遠慮がちにか、話の端々に使われている。奥ゆかしさなのか、自信が無く決め付けることがはばかられるのか、物事を断定することは難しいものではあるが…。これは議論や長い挨拶を嫌う体質、狭い同質村社会での融和を重視する、日本人の歴史的深層心理に根差すものではないだろうか。

また、何気なく使われている言葉で気になるものがある。政治家や作家・文化人は自国のことについて、なぜ「この国」というのか? 無論「日本」と言う人もいるが、注視していることだ。この人は「この国」を使っていると思う。なぜ「わが国」と言わないのか? 「この国」とは第三者的に突き放した、評論家

風には話す感であり、外国のことを指す際にも使えるものだ。

いわゆる客観的、国際主義的立場とも思えない。自身が寄って立つ土台であるのに、「わが国」というのが心理的に気恥ずかしいのだろうか。単純な国家主義ではないが、何となく気になる。意識は言語へと結びつき、言語は行動を規定するだろう。歌謡曲の歌詞が、よく考えられた素晴らしい言葉でちりばめられていて、感心する時がある。

暮しの中の豊かな会話を思い、広辞苑刊行にちなんで考えてみた。

付論

提案 「本の日」が記念日となるが、さらに国民の祝日に晴耕雨読の、祝日の無い6月案、

「海の日」があり、「山の日」も制定されたが、それでは「川の日」も考えられなければならないだろう。ではなぜ祝日「本の日」の機運がないのだろうか。「本」「読書」は文化国家の基本であると強く思う。昭和三〇年代頃までは、豊かなくても、一般家庭は日本の歴史・日本の文学や百科事典を手近に揃えようと思っていたものだ。その向上心の文化的エネルギーが、日本の高度成長を支えたのだろう。

根本・本質・本来・本音・本性など「本」の付く重要な熟語は山ほどある。「日本」もそう。これは何を意味するものだろうか。

編集後記

『堺の諸店人』

こんにちは、毎日暑いですがいかがお過ごしでしょうか?

残念な事ですが、堺市の泉北では5月近く営業されていた駅前書店が5月に閉店致しました。駅が一番良い立地にも関わらず閉店に追い込まれたのだから、書店が駅前店舗を構えて営業するスタイルはもう古いのでしょうか?

まだまだ暑い日が続くようすが、お体には十分にお気をつけてこの夏を乗り切ってください。